

東京のポイ捨てが太平洋の海ごみになっている

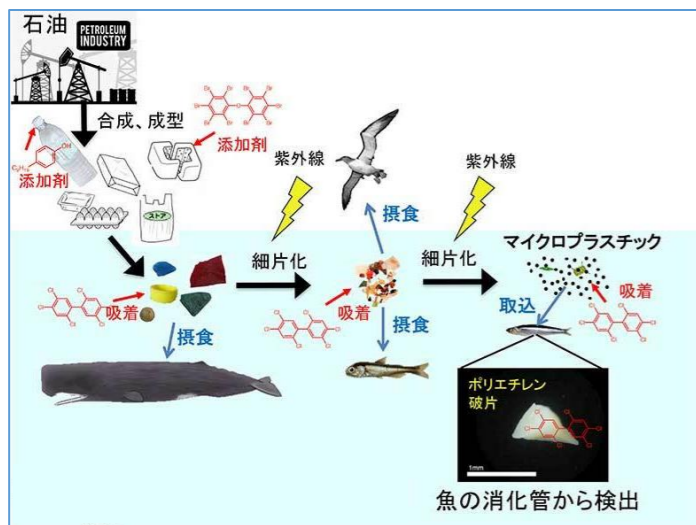
海ごみは、日本ばかりでなく世界中で海をよごしています。さらにこの海ごみの大半はプラスチックです。毎年800万トン以上のプラスチックのごみが海に流出していると言われています。このままでは海の魚よりもプラスチックごみの量が多くなってしまわないかと心配されています。



写真提供：小笠原村

マイクロプラスチック

マイクロプラスチックは、海をただよっているプラスチックが太陽の光や海の波の影響により、5mm以下に小さくなったものです。海洋生物がこうした海ごみをエサとまちがえて食べてしまうなど、生態系への影響が大きく危ぐされています。



「東京くらしネット」平成27年7月号から転載

○海ごみは、海の生態系にどんな影響をあたえているのだろう

☆もっと調べてみよう☆

○東京都環境局「東京のポイ捨てが、太平洋の海ごみになっている。」 <ここをクリック>

○(一社)産業環境管理協会

「小学生のための環境リサイクル学習ホームページ」 <ここをクリック>



◇考えてみよう

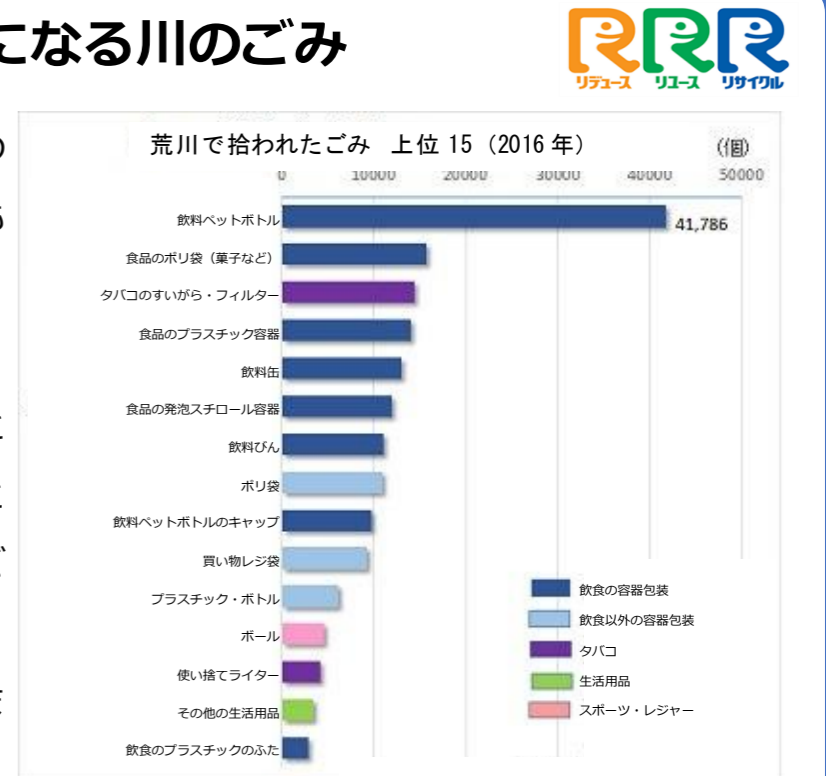
- ごみが海ごみにならずに、リサイクルされるためにはどうすればよいだろう。
- 海ごみを減らすために、私たちにできることはどんなことだろう。



海ごみになる川のごみ

右の図は、荒川の河川敷で拾われたごみの種類や量を調べたものです。

川は海とつながっているので、河川敷のごみは、雨で増水したときなどに海に流れてしまうことがあります。他にも、街の中のごみが風で飛ばされて川に運ばれ、海に流れてしまうこともあります。このように、街で出たごみも、海に流れ、海ごみの一部となっています。一方で、飲料ペットボトルなどのごみは、リサイクルすることで、資源として活用することもできます。



NPO 法人荒川クリーンエイド・フォーラムより

○河川敷のごみには、どんな物が多いだろう。

リサイクルで金メダル

日本では、使われなくなったパソコンや携帯電話などの小型家電が1年間で65万トン出ます。これらの小型家電の中には、鉄やアルミニウムの他に、金、銀、銅などの貴重な金属が844億円分もふくまれています。集められた小型家電はリサイクルされ、新たな製品として生まれ変わっています。東京オリンピック・パラリンピック2020競技大会でも、入賞メダルに使われ話題になりました。



写真提供：東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会